



ネコの目（ひとみ）は、暗い所でなぜまん丸くなるの

光をたくさん集めるため

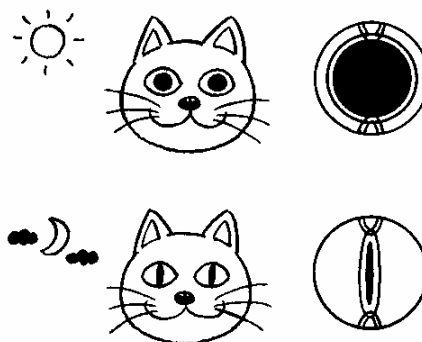
ネコの目玉の黒い部分は、ひとみとよばれ、外の光が目に入ってくる部分です。ネコは、もともと、夜、獲物をねらって活動する動物です。そのため、夜活動しやすい体のしくみをもっています。その一つが、わずかな光で真っ暗な夜でも、物を見分けられる目をもっていることです。

ネコの目は、人間ほど、色を細かく区別して見ることはできません。イヌほど近眼ではありませんが、遠くの物を見る視力も、人間の10分の1しかありません。けれど、うす暗い所で物を見るはたらきは、人間以上です。ひとみをまん丸に大きく開いて、できるだけ光を集め、暗い夜でもネズミなどを見つけれられるわけです。

ネコにとって、昼間の光は明るすぎるため、ふつう見るネコのひとみは、縦に細くなり、入ってくる光を少なくしています。

人間のひとみも、暗いと大きくなる

人間の目も、よく見ると、目玉のまん中に、小さく丸いひとみがあります。ネコのように形までは変わりませんが、人間のひとみも、明るい所では小さくなり、暗い所では大きくなって、目に入ってくる光を調節しています。（監修・今泉 忠明）



明るさで変わるネコのひとみ

